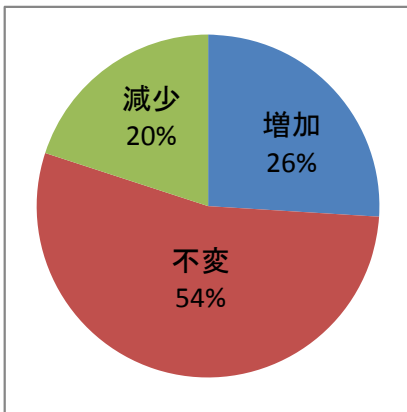


## ■ データから見た業界の動き

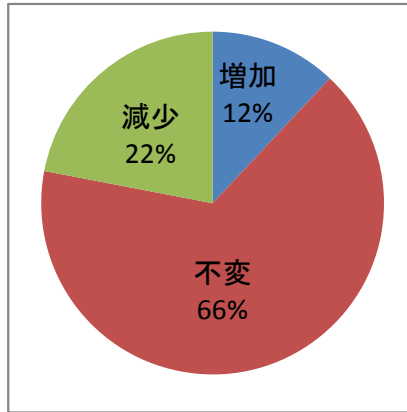
(平成25年4月分)

● 2012 / 4

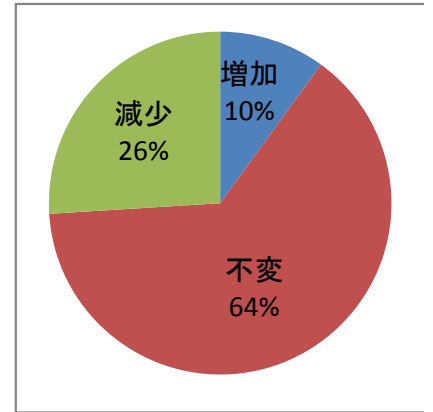
売上高(前年同月比)



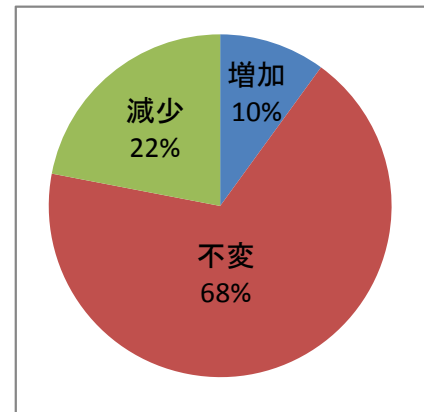
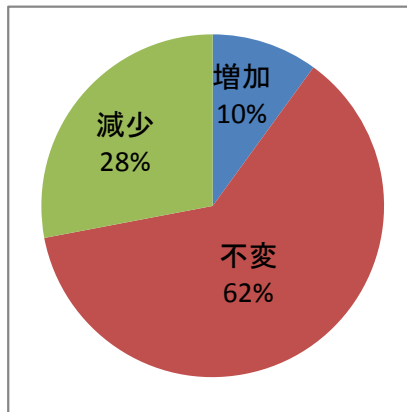
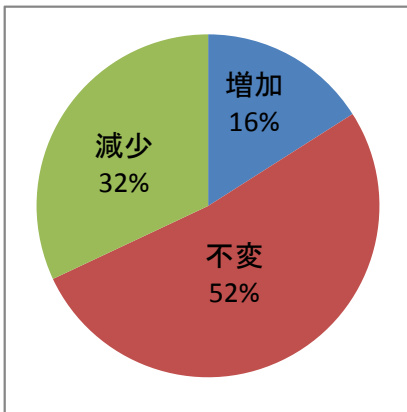
収益状況(前年同月比)



景況感(前年同月比)



● 2013 / 4



## ■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2012/4	2013/3	2013/4	2012/4	2013/3	2013/4	2012/4	2013/3	2013/4
売上高	20	-25	-10	-3	-17	-20	6	-20	-16
収益状況	0	-40	-20	-17	-37	-17	-10	-38	-18
景況感	-5	-25	-10	-23	-30	-13	-16	-28	-12

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100)=D.I値

## ■ 概 況

本県の4月の景況は、全業種のD I 値が、売上高-16（前年同月比-22）、収益状況-18（前年同月比-8）、景況感-12（前年同月比+4）となっている。業種別のD I 値では製造業で、売上高-10（前年同月比-30）、収益状況は-20（前年同月比-20）、景況感-10（前年同月比-5）。非製造業で、売上高-20（前年同月比-17）、収益状況-17（前年同月比±0）、景況感-13（前年同月比+10）となった。

全体の前年同月比では売上高、収益状況は悪化しているが、景気回復への期待感からか景況感は4ポイント改善した。

前月比では、製造業の売上高は15ポイント、収益状況が20ポイント、景況感が15ポイントと大きく改善している。非製造業では、収益状況が20ポイント、景況感が17ポイントとD I 値が好転しているものの、売上高は3ポイント悪化となった。

情報連絡員による県内の4月の業況報告は、日銀による金融緩和や公共投資の執行などが追い風となり企業マインドの改善が期待されるが、円安による輸入価格の上昇で収益が圧迫されている。特に、燃料等の値上げによる価格への転嫁は難しく企業経営への悪影響を懸念する報告も多く見られた。

製造業では、原料や燃料等の値上げによる利益確保が難しいとの報告が多かった。

また、アベノミクス効果による景気回復の兆しはあるものの、中小企業の現場までは到達していないとの報告もあった。

非製造業では、公共投資の執行や景気回復への期待感が高まっている一方、輸入食材や燃料の高騰等により消費マインドの低下が続いているとの報告も見られた。

富士山の世界文化遺産登録等、山梨県経済を活性化させる明るい話題もあり、一刻も早い景気回復に期待したい。

## ■ 業界の声

情報連絡員には、景気動向の変化、現状とその背景などについて、業界または組合員全体の動向・予測(売上高・原材料等経費・資金繰りなど)についてコメントを求めた。

### ● 製造業

食料品（水産物加工）	自社製品のギフト用が順調のため売上は、前年同月比108.8%。しかし、円安で原材料が高騰しているためコストアップの要因となっている。
食料品（洋菓子製造）	自社製品、OEMともに好調。特に、コンビニエンスストア向けの売上は今年の2倍、輸出も1.5倍となり前年同月比114%。しかし、小麦粉等の原料や燃料費等の高騰により収益圧迫の要因となっている。
食料品（菓子）	原料や燃料費等の高騰により利益の確保難が続いている。消費税増税を前に自社製品の卸売価格の値下げ交渉が納入先から来ている。
窯業・土石（砂利）	燃料費や電気代の値上がりにより昨年同月に比べ収益が悪化している。
鉄鋼・金属(1)	自動車関係は、回復の兆しがあるが電子・デバイス関連はまだまだ。
鉄鋼・金属(2)	円安で雰囲気は良くなっているが実態が伴っていない。
一般機器	親会社等の在庫調整により受注減。急ぎの仕事は納期が短い。
電気機器	中小企業内でも景気回復への期待感が高まっているが、今だに期待感だけで景気が良くなる気配はない。特に、金属加工業、プレス加工、モールド、半導体関係は低迷したままである。

● 非製造業

卸売（ジュエリー）	4月4～5日で開催された第42回甲府ジュエリーフェアは、前年対比112%と売上を伸ばした。出展者からも「好転の兆しが見られる。」との報告を受けた。しかし、素材であるダイヤ等の値上げ、地金価格の高騰等、不安材料は解消されていない。
小売（青果）	気候の上昇に伴い青果物の入荷量も増加し、荷動きが活発になってきた。
小売（食肉）	県内におけるアベノミクス効果はいまだ薄く、消費不振が続いている。ガソリンや電気等の値上げの価格転嫁は難しく利益が減少し収益確保が厳しい。
小売（水産物）	海老や鮭等が値上がりし始めた。また、食用油やバターも5月から値上げとなる。
小売（石油）	原油輸入の約9割が中東地域に依存しているため、中国やインド等の石油需要の急増と産油国等の政情不安により石油価格が上昇している。また、エコカー等の低燃費車の普及拡大によりガソリンの需要低迷や販売価格の高騰により収益の確保は厳しい。
商店街	イベントや休日以外は、来街者が減少している。
宿泊業	前年同月比5%の売上減少。甲府市内の公共工事の大型建設工事の終了や信玄公祭りは天候悪化の予測からキャンセルが急増した。しかし、富士山が世界文化遺産の登録等、明るい話題もあり今後期待したい。
美容業	人口の減少や高齢化が進み固定客が減少傾向にある。客単価を上げるため、複合の施術を提案するが、顧客には受け入れてもらえない。
廃棄物処理（事業系）	年度初めのため、普段の月より若干仕事量が増加した。
建設業（総合）	労務単価の見直しにより売上高の増加及び収益の増収が期待される。受注量の増加に伴い雇用人員(現場労働力)の確保が課題となる。
建設業（型枠）	3月まで顕著に推移していた工事量が4月に入り極端に減少した。しかし、各企業とも6月以降に確保している仕事量から人手不足を懸念している。
建設業（鉄構）	鋼材、副資材が高騰している。しかし、加工費や単価は据え置き。見積り依頼は増加傾向にあるが、単価が安く、受注までに至るケースは少ない。
設備工事（管設備）	平成25年度公共工事設計労務単価の運用に係る特別措置により、技能労働者への賃金水準の引き上げに期待する。
運輸（タクシー）	4月から1台減車となった。昨年に比べ売上は減少している。燃料の高騰等によりますます収益確保が厳しくなっている。
運輸（トラック）	燃料が高騰しており収益を圧迫している。